

『信濃川水系緊急治水対策プロジェクト』の進捗状況

～事業期間の延長と今後の見通し（お知らせ）～

この度、国、県より、当事業の完了を令和9年度（2027年度）末としていた計画について、事業地の用地取得や測量設計などに想定以上の時間を要しているため、完了期間を令和13年度（2031年度）まで、治水効果の発現を令和13年度の出水期（6月頃）まで延長することについて、説明がありましたので、市民の皆様にご理解を求め、当該プロジェクトの状況や今後の見通しなど、Q&Aにより、改めてお知らせすることとします。

引き続き、当該プロジェクト推進にあたり、ご理解ご協力をお願いします。

**Q1：市内プロジェクトの今後の見通しは？（裏面事業概要参照）**

- A1：①蓮遊水地＝令和12年度（2030年度）末の完成を目指します。
②静間地区堤防＝令和9年度（2027年度）末の完成を目指します。
③皿川堤防＝令和13年度（2031年度）末の完成を目指します。
④常郷地区堤防＝令和9年度（2027年度）末の完成を目指します。
⑤戸狩狭窄部掘削＝令和9年度（2027年度）末の完成を目指します。
⑥照岡馬場堤防＝令和7年度（2025年度）の完成を目指します。

Q2：上流区間での堤防工事や河道掘削が進んでいる。本市への影響は？

- A2：千曲川本川の上下流バランスを取りながら、事業を進めております。
例えば、上流にあたる「大町ダム等再編事業」では、新たに洪水調節容量が確保（2,000万m³+1,267万m³=3,267万m³）されるようになりました。
これは、小学校の25mプール、約5万4千5百個に値する量となります。
また、お隣中野市で計画されている「立ヶ花狭窄部の河道掘削」においては、全体を5段階に分け、現在3段階で掘削を止めていることなど、下流への洪水による負担軽減が図られ事業が進んでいます。

Q3：事業期間の見直しを受け、市としての考え方は？

- A3：市では、当該プロジェクトの事業量や規模に照らして、また、上下流のバランスに配慮しながら進捗していることもありプロジェクト全体的な期間の延長は、止むを得ないと考えております。
見直しをしましたが、令和元年（2019年）災害時の浸水被害原因個所の解消は図られるものと考えており、蓮遊水地においても、引き続き、地元の皆様方を中心に意向を確認しながら、丁寧に国や県と連携を図り、1日でも早い完成に向け努めてまいります。
また、上流流域にも、市で進めております「バスダム宣言」の取組みを紹介、働きかけるなど、流域治水の「自分事化」を市民のご理解ご協力のもと、発信、努めてまいります。

※「バスダム宣言」：川の増水が考えられる豪雨の時に風呂場等の排水を抑えていただく取組み。湯舟の水を溜めておくことで、本市で約1,600m³の排水量（25mプール約5～6個分）が、抑えられることとなります。



信濃川水系緊急治水対策プロジェクト事業とは

- 令和元年東日本台風により甚大な被害が発生した信濃川水系において、国、県、市町村が連携し、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を進めています。
- 国、県、市町村が連携し、①河川における対策 ②流域における対策 ③まちづくり、ソフト施策を実施していくことで、信濃川本川及び千曲川本川の堤防で被災した区間の越水防止を目指します。

飯山市内で行われている信濃川水系緊急治水対策プロジェクト事業



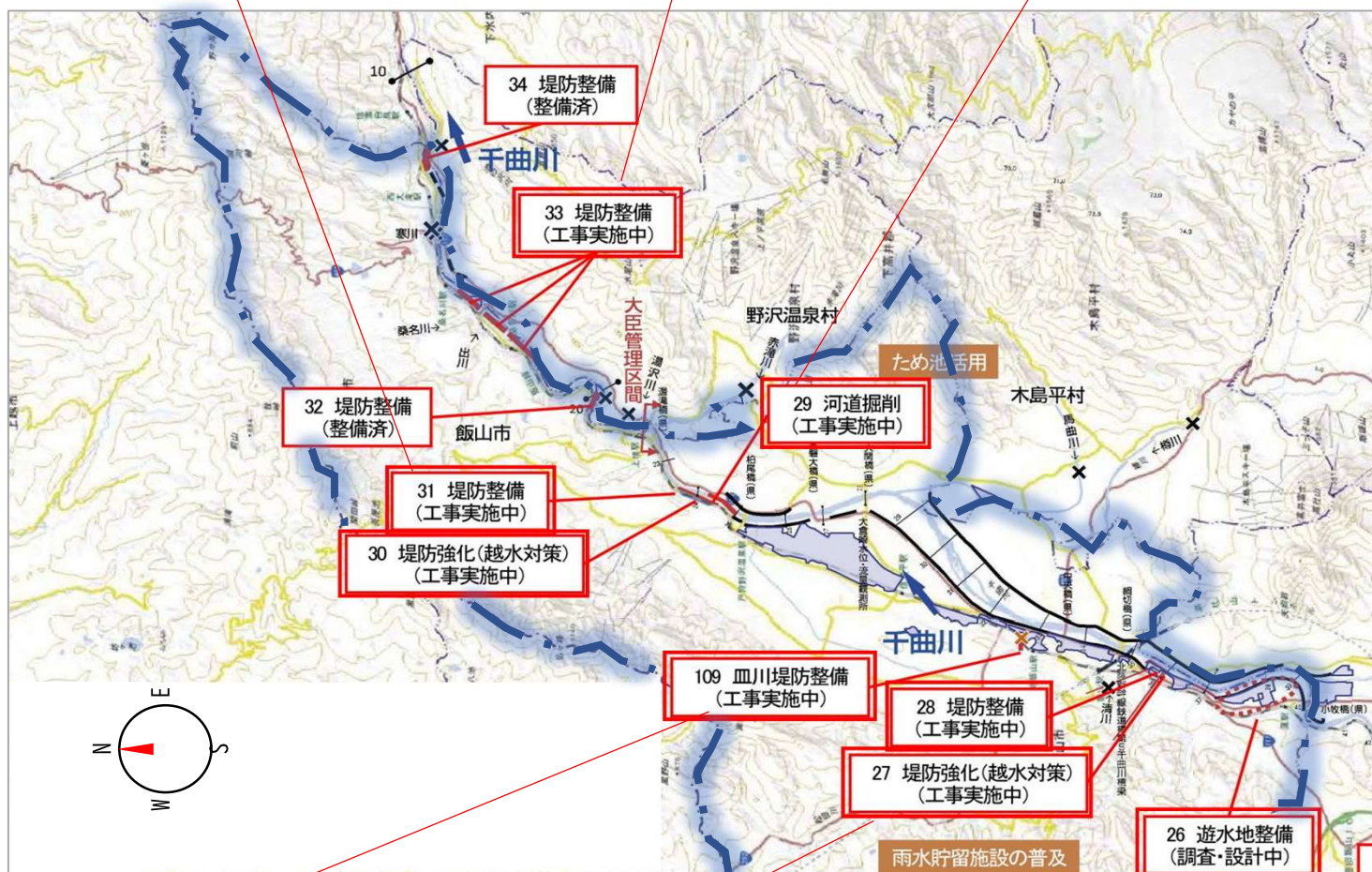
30,31：常郷地区



33:桑名川地区(県)



29:戸狩地区



109:皿川(県)



27,28:静間地区



26:蓮地区